

各チームの運営におきましては、一人の指導者の独善とならないように、①複数の指導者で子ども達の育成にあたる。②保護者に練習の様子などを見てもらい、常に複数の目で子ども達を見守る。③問題がある場合には、チーム内で話し合い、また地区や都道府県のミニ連盟に指導を仰ぐ。など環境整備を行い信頼される組織であることが大切です。お金の関係も一人で扱わず、複数で担当することが望ましいと考えます。

最後に、ミニバスケットボールの指導についての基本的な考え方を以下のようにとまとめてみました。

①指導者は、プレイヤーの一人一人を技術や体力面のみならず精神面や情緒面を含めて全面的に育てなければなりません。子供を傷つける言動は絶対にゆるされないものである。

②指導者は、参加する子供たちを公平にみてやてやるべきではない。

③指導者は、チームのメンバーの一人一人が持っているよさを発掘し、それを十分に生かす義務がある。

④ゲームに勝つことは、指導者にとってもプレイヤーにとっても大きな願いであるが、単に結果だけを重視するのではなく、ねらいやその練習過程を重視した指導が必要である。

⑤指導者は、子供たちに意欲を持って学習させるためには、良いプレイをしたときに大いに称賛することである。

⑥練習は、明瞭な目標を持って行うことと、ゲームの局面に近い練習を行うこと、そして、参加者全員が効果的かつ平等に練習できるような工夫すること。

⑦基礎となる考え方やスキルはミニバスケットボールでも適切に指導していかねなければならぬ。基礎的な動き（ボディコントロール、ボールコントロール等）や俊敏性の体得については、楽しく学ばせると将来の成長が一層促進される。

⑧指導者は、子供のコート上のケガの防止に万全を期するだけでなく、情緒的、精神的な安定の配慮や日常生活態度についても配慮しなければならぬ

⑨指導者は、子供に友情、ほほえみ、フェアプレイの精神をしっかりと学ばせさせなければならぬ。

ミニバスケットボールを通じて、子ども達をしっかりと育てていきましょう。



平成18年1月12日

日本ミニバスケットボール連盟